

令和3年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

| | |
|----------|---|
| 施設名称 | 大阪市立児童院（児童心理治療施設） |
| 施設所管課・担当 | こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ |
| 条例上の設置目的 | 児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの |
| 業務の概要 | 児童心理治療施設の管理運営 |
| 成果指標 | ①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率 |
| 目標 | ①100% ②100% |
| 指定管理者名 | （社福）聖家族の家 |
| 指定期間 | 令和3年4月1日～令和11年3月31日（8年間） |
| 評価対象期間 | 令和3年度分 |

2 管理運営の成果・実績

| | | |
|------|------|---|
| 成果指標 | ① | ② |
| 数値目標 | 100% | - |
| 年度実績 | 100% | - |
| 達成率 | 100% | - |

利用状況（各年度3月1日時点）

| | | | |
|------|-------|-------|------|
| | 前年度 | 3年度 | 前年度比 |
| 利用人数 | 21 | 21 | 0 |
| 稼働率 | 65.6% | 75.0% | 9.4% |

3 収支状況

| 収入 | | 3年度 | 前年度 | 差異（実績－計画） | 主な要因 |
|-------------------|----|-------------|-------------|--------------|------------|
| 業務代行料 | 実績 | 226,009,872 | 230,239,923 | -130,664,128 | 入所児童数の減による |
| | 計画 | 356,674,000 | 321,085,000 | | |
| 利用料金収入 | 実績 | 0 | 0 | 0 | |
| | 計画 | 0 | 0 | | |
| その他収入 （自主事業収入） | 実績 | 2,452,214 | 2,506,748 | 2,452,214 | |
| | 計画 | 0 | 0 | | |
| 合計 | 実績 | 228,462,086 | 232,746,671 | -128,211,914 | 入所児童数の減による |
| | 計画 | 356,674,000 | 321,085,000 | | |

| 支出 | | 3年度 | 前年度 | 差異（実績－計画） | 主な要因 |
|--------------------|----|-------------|-------------|-------------|------|
| 人件費 | 実績 | 165,996,095 | 165,133,728 | 165,996,095 | |
| | 計画 | | | | |
| 管理運営費 | 実績 | 43,137,090 | 47,607,489 | 43,137,090 | |
| | 計画 | | | | |
| その他事業費 （自主事業支出） | 実績 | 17,771,650 | 17,819,488 | 17,771,650 | |
| | 計画 | | | | |
| 合計 | 実績 | 226,904,835 | 230,560,705 | 226,904,835 | |
| | 計画 | 0 | 0 | | |

令和3年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価

(1) 成果指標の目標達成状況

| 評価項目 | 市の評価 | 特記事項 |
|------|------|---------------------------------------|
| ① | B | 自立支援担当職員を配置し、適切に対応されたことにより、目標を達成している。 |
| ② | - | 対象件数はなかった。 |

(2) 市費の縮減

| 市費縮減に係る取組状況 | 市の評価 | 特記事項 |
|--|------|------|
| 児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行料を支出しており、市費縮減については不可能 | B | |

(3) 管理運営の履行状況

| 評価項目 | 市の評価 | 特記事項 |
|--------------------|------|--|
| 施設の設置目的の達成及びサービス向上 | | |
| 施設の管理運営 | A | 施設は別所属との複合施設となっているが所管部分において、日常的な点検整備を欠かさないことで、入所者の安全に配慮されており、ビル会議などにも積極的に参画いただいている。 併せて、措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点は評価できる。 |
| 施設の維持管理 | | |
| 職員の配置状況 | | |
| 安全管理 | | |
| 市民サービスの向上 | A | 施設内において家族療法事業を実施し、入所児童の家族も巻き込んだ心理療法の実施に取り組むなど家族機能の回復及び生活環境調整に取り組んでいる点など評価に値する。 |
| 利用者満足度調査 | | |
| サービス向上策の実施 | | |
| 事業計画の実施状況 | B | 児童入所施設運営として適切かつ良好である。 |
| 事業の実施状況 | | |
| 施設の有効活用 | B | 同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップに努めたり新たな情報確保に努めるとともに、地域子ども会への参画など果たすべき役割を担っている。 |
| 地域との連携 | | |
| 他施設との連携 | | |
| 社会的責任・法令遵守 | B | 適切かつ良好である。 |
| 勤務労働条件の確保 | | |
| 個人情報保護対策 | | |
| 環境への配慮 | | |
| 就職困難者の雇用 | | |

5 外部専門家意見

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護に係る子どもの年齢制限が大幅に見直される中において、施設ケアの独自性・特色を打ち出すことや付加価値の検討、また在宅の子どもたちへのアウトリーチを含む支援や里親も含むケアラーへの支援など、新たなキャッシュ・ポイントの創造も必要かと思う。 ・法人の報告書を拝見し、大変な家庭状況にある子どもたちの入所を受けて、よく実践されていると評価できる。また子どもの思いや希望など、子どもの声を聴く取組が求められていますので、「子どもの意見表明権」の保障にも取り組んでいただきたいと思う。 ・すべての退所児童の現況把握ができていることは評価できる。 ・セラピーについて、法人内職員との交流やスーパーバイズ体制の強化を図った点は評価できる。 ・苦情解決について、児童の要望や意見を把握できる工夫や取り組みを期待したい。 |
|--|

6 総合評価

| 評価項目 | 評価 | 所見 |
|---------------------|----|---|
| 成果指標の目標達成 | B | 目標達成している。 |
| 市費の縮減 | B | 児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。 |
| 施設の設置目的の達成及びサービスの向上 | A | 家庭支援として、家族療法事業を実施し、家族全体に対する心理療法等により、家族機能の回復や生活環境調整を行い、家庭復帰等をふまえた支援に取り組んでいる。 |
| 施設の管理運営 | | |
| 市民サービスの向上 | | |
| 事業計画 | | |
| 施設の有効活用 | | |
| 社会的責任・市の施策との整合 | B | 適切かつ良好である。 |
| 総合評価 | B | |